



Title	アリュートル語の所有を表わす2つの接辞
Author(s)	永山, ゆかり
Citation	北方言語研究, 2, 23-34
Issue Date	2012-03-26
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/49250
Type	bulletin (article)
Note	特集 所有表現
File Information	03nagayama.pdf



[Instructions for use](#)

[特集 所有表現]

アリュートル語の所有を表わす2つの接辞

永山 ゆかり
(北海道大学)

1. はじめに

本稿はアリュートル語¹(古アジア諸語チュクチ・カムチャッカ語族)の所有を表わす2つの接辞をとりあげる。

アリュートル語は接辞法や語幹合成による語形成がさかんにおこなわれる膠着的な言語であり、また一つの語にさまざまな意味の接辞をいくつも含みうる複統合的な言語である。名詞には必ず格が標示されるため、語順はおおむね自由である。一般に形容詞と呼ばれる形式は名詞との共通性を多く持つ。

attributive possession は所有者を表わす名詞に所有形の接尾辞をつけることで表わされるが、所有者の種類によって3つの接尾辞を使い分ける²。

(1) 普通名詞: *-in*

ənpəŋav-in **akək**
老女-POSS>3SG 息子.ABS.SG
「(ある) おばあさんの息子」(GTN)

(2) 人名: *-nin* (単数の所有者) / *-tin* (複数の所有者)

qutkən n aqun-in **un un u**
PSN-POSS>3SG 子供:ABS.SG
「Qの子供」(GTN)

(3) 場所を表わす名詞、数詞、動詞など: *-kin*

aryiŋ-kin **tatqup-n aqun**
海岸-POSS>3SG 根-AUG:ABS.SG
「海岸の (=海岸にある) 大きな根」(GTN)

predicative possession には2種類あり、所有物に接辞をつけることで表わされる。

¹ 本稿で用いるデータには、(1) ロシア連邦カムチャッカ地方旧コリヤーク自治管区で筆者が行った現地調査において得られた資料、(2) ロシアにおいて刊行されたテキスト集(Kilpalin 1993)、および(3)テキスト資料を含む文法書(Kibrik et al. 2004)が含まれる。(1)についてはコンサルタントの頭文字を示した。音素目録は次のとおり: /p, t, k, q, ʔ, m, n, ŋ, l, l', r, v, s, ʃ, w, j, i, e, a, o, u, ə/. ロシア語からの借用語にはキリル文字をラテン文字に転写した表記を用いることもある。

² 例示に用いた略号・記号は次のとおり: -(接辞境界);=(クリティック境界);+(複合語境界);1(1人称);2(2人称);3(3人称);A(他動詞主語);ABS(絶対格);ABES(欠格);ADV(副詞);AUG(指大辞);COM(共格);DAT(与格);DIM(指小辞);E(挿入音);EMP(強調);ERG(能格);ESS(様格);INC(起動);IPFV(不完了);INCH(起動);LOC(場所格);LOW.A(目的語より低位の主語);NEG(否定);NSG(非単数);P(他動詞目的語);PFV(完了);PL(複数);PLN(地名);PLUR(複数化接辞);POSS(所有);POT(可能法);PRED(述語);PROL(沿格);PROP(proprietary);PSN(人名);PTCP(分詞);RDP(重複);RES(結果相);S(自動詞主語)。

(4) **jaq jaq-u** **jərr+ə-p lak-ə-lʔ-u**
 カモメ-E-ABS.PL 赤い+E-靴-E-PROP-ABS.PL
 「カモメは赤い靴をはいている」(UDP)

(5) **ann əlq-ə-n** **ʔa-m in t-ə-lin**
 PLN-E-ABS.SG WITH-水-E-WITH.3SG
 「A(岬)には水がある」(GTN)

本稿では predicative possession のうち、接尾辞 *-lʔ* による形式を L 形、接周辞 *ʔa...-lin* (ə) による形式を G 形と呼ぶ。これらの接辞はいずれも生産性が高いが、L 形はテキスト中の使用頻度も高いのに対し、G 形はテキスト中での使用頻度が低い。これらの形式については永山(2004)および Nagayama(2006)で詳細に論じたが、本稿ではユーラシア北東部諸言語にみられる所有を表わす接辞との比較を視野にいれつつ、これらの接辞について再検討する。以下、第2節では L 形の、第3節では G 形の用法・語形成・意味についてそれぞれの特徴を記述する。第4節では L 形および G 形と存在構文の違いを、続く第5節では L 形と共格接辞との共起について概観し、第6節では欠如を表わす形式について簡単に記述し、最後に本稿のまとめと今後の課題を述べる。

2. L 形による所有表現

先行研究で L 形³は「名詞語幹が表わす特性(property)を持つ連体修飾形をつくる接辞」とされている (Kibrik et al. 2004: 626)。L 形は普通名詞と同様に必ず格接尾辞をとり、それ自体が単独で名詞句としてもちいられるほか、絶対格の名詞と並置されてその名詞を修飾する。その際には L 形は主要部となる名詞と格において一致する。なお普通名詞は絶対格のままほかの名詞を修飾することはできず、ほかの名詞を修飾する際には上述の所有形をとる(cf. 1-3)。

(6) 名詞句用法

ʔoro **ʔa-juʔ-ə-lq iv-lin** **janut+ə-m ʔu-lʔ-a**
 やがて RES-達する-E-INC-RES.3SG.P 前+E-トナカイ櫓の隊列-PROP-ERG
ʔənun+ʔətʔə-lq-ə-k **rənn-uw w i**
 中央+湖-表面-E-LOC 角-ABS.PL

「やがて前の隊列にいた者たちが湖の中央にある角のところへ達した。」(Kibrik et al. 2004: 76; Text016-007)

(7) 連体修飾用法

naqam **əv+paltu-lʔ-u** **kalaka-w** **tunvat-la-t**
 ただちに 黒い+コート-PROP-ABS.PL 木偶人形-ABS.PL あらわれる-PLUR-3PL.S:PFV
 「黒いコートを着た木偶人形がただちにあらわれた」(Kibrik et al. 2004: 52)

³ 同系のチュクチ語では「ものをあらわす分詞的な名詞類」(Skorik 1961: 216-225, 358)、コリヤーク語では「行為者の名詞類」(Zhukova 1972: 137)とされている。

ほかに、名詞や形容詞の語幹と同様に、複合語の前部要素として名詞語幹に付加され、後部要素である名詞語幹を修飾している例が確認されている。

- (8) **m aŋkot** **ɣəm n in** **ŋan in** **kali-ŋ+ə-w inqur**
 どのように わたしの>3SG あの>3SG ぶち-PROP+E-雌トナカイ:ABS.SG
it-ə-ŋ-ə-n?
 ある-E-PTCP-E-ABS.SG
 「わたしのあのぶちのある雌トナカイはどうしてる？」(IMP)

2.1 L 形の付加する語

接尾辞-ŋは名詞のほかにも形容詞(9)、数詞(10)、人称代名詞(11)にも付加しうる。ただし指示代名詞、人名に付加することはできない。名詞の性質によって意味や用法上の特徴が観察されるほか、語彙化した形式も多い。

- (9) **ura-ka** **ana** **m urək-kə** **m am i-ŋ** **ura-ŋ-ə-n**
 遠い-ADV おそらく わたしたち-LOC 物置-DAT 遠い-PROP-E-ABS.SG
 「遠くに(あった)、たぶん(ここから)うちの物置ぐらいまでの遠さだった」(GSV)
- (10) **ŋ itaqav-ə-ŋ-u** **it-ti** **om m əqo**
 2番目の-E-PROP-ESS ある-3SG.S:PFV PSN:ABS.SG
 「(トナカイ橇レースの)2位はOだった」(Kilpalin 1993: 118)
- (11) **ɣa-ju nat-ə-lq iv-laŋ** **arɣ iŋ-tən-ə-k** **m urəkka-k-ə-ŋ-u**
 RES-住む-E-INC-RES.3PL.S 海岸-側-E-LOC わたしたち-LOC-E-PROP-ABS.PL
təŋat-ə-ŋ-u
 魚をとる-E-PTCP-ABS.PL
 「海岸にわたしたちの(=アリュートル人の)漁師が住んでいた」(IMP)

なお次のように動詞語幹に L 形接尾辞を付加したものは分詞として区別し、本稿では扱わない。

- (12) **...valum -ə-tkə-n in** **ŋavakək** **pərv isat-ə-ŋ-ə-n**
 ...聞く-E-IPFV-3SG.A>3SG.P 娘.ABS.SG 話す-E-PTCP-E-ABS.SG
 「(彼は)娘が話しているのを聞いている」(CMN)

2.2 L 形の所有物名詞の性質と表わす意味

(A) 身体部分、属性

身体部分など譲渡不可能所有物のうち、角田のいう普通所有物(角田 2009: 158)を表わす名詞については、所有物の特異性が含意される(13)。

身体部分の中でも非普通所有物を表わす名詞であれば単なる所有を表わす(14)。所有物の前に語幹合成による修飾要素をとともなうこともある(15)。

- (13) **ɣoro** **ɣa-ɣita-lin** **pu latk-epə** **ɣətɣ-ə-lʔ-ə-n aɣu**
 やがて RES-見る-RES.3SG.P テント-PROL 毛-E-PROP-E-AUG:ABS.SG
nika **ɣu jam taw iʔ-ə-n** **jat-ə-tkə**
 ええと 人間-E-ABS.SG 来る-E-IPFV:3SG.S
 「やがてテントのほうから大きな毛むくじらの人間がやってくるのが見えた」(IMP)
- (14) **ɣətɣ-ə-k** **m enj+ə-kam ak-n aɣu** (...) **rən n -ə-lʔ-ə-n aɣu**
 湖-E-LOC 大きい+E-怪物-AUG:ABS.SG (...) 角-E-PROP-E-AUG:ABS.SG
ɣan in **ɣətulʔat-ə-tkə**
 その>3SG 出る-E-IPFV:3SG.S
 「湖から角のある大きな怪物が出てきた」(IMP)
- (15) **ɣa-nv issav-lin** **ɣərən -ɣətka-lʔ-ə-n**
 RES-立てる-RES.3SG.P 三+足-PROP-E-ABS.SG
 「3本足の(焚火の上に鍋などをかける棒)を立てた」(IMP)

(B) 衣類、親族名称、家畜・乗り物、場所を表わす名詞、その他のモノ

衣服、親族名称、家畜・乗り物、場所、その他のモノなどの所有物では、単なる所有ではなく所有物との一体感を表わす。

具体的には衣服では現に着用していること(16)、親族名称およびそれに準ずる名詞では随伴していること(17)、家畜や乗り物では乗用していること⁴((18)、(19))、場所を表わす名詞では所有者の帰属(20)や位置(21)のような意味となる。

- (16) **ləq laŋ-ki** **panka-lʔ-ə-m uru**
 冬-LOC 帽子-PROP-E-1PL.PRED
 「わたしたち(アリュートルの女)は冬には帽子をかぶる」(GTN)
- (17) **ɣavəlw əl** **ɣərən+qe-keŋ-ə-lʔ-ə-n**
 雌熊:ABS.SG 三+DIM-熊-E-PROP-E-ABS.SG
 「3匹の子熊を連れた雌熊」(Kilpalin 1993: 84)
- (18) **ɣətɣ-ə-lʔ-ə-n** 「犬橇に乗った人」(GTN)
 犬-PROP-E-ABS.SG
- (19) **m atəv-ə-lʔ-ə-n** 「カヤックに乗った人」(GTN)
 カヤック-PROP-E-ABS.SG
- (20) **a luta-lʔ-ə-n** 「アリュートル村の人、アリュートル人」(NVM)
 PLN-PROP-E-ABS.SG
- (21) **arɣ iŋ-ə-lʔ-ə-n** 「海岸にいる人」(GTN)
 海岸-E-PROP-E-ABS.SG

その他のモノを表わす名詞では携帯の意味となり、非普通所有物の例が多い。

⁴ ただし数詞や形容詞などの修飾要素がついた場合は単なる所有を表わす。

- (22) **pujə-θ-lʔ-θ-n** 「槍を持った人」(GTN)
 槍-E-PROP-E-ABS.SG

なお例文 (23) のような修飾要素をとまわらない例は不適切とされるが、例文 (24) のような修飾要素をとまわう例は許容される。

- (23) ***ŋavkeŋ-θ-n** **qe-keŋ-θ-lʔ-θ-n**
 雌熊-E-ABS.SG DIM-クマ-E-PROP-E-ABS.SG
 「*子熊を連れた雌熊」(CLI)
- (24) **ŋavkeŋ-θ-n** **ənan+qe-keŋ-θ-lʔ-θ-n**
 雌熊-E-ABS.SG 一+DIM-クマ-E-PROP-E-ABS.SG
 「一匹の子熊を連れた雌熊」(CLI)

(C) 語彙化

L形には語彙化しているものも多い。

- (25) **kali-lʔ-** 「ゴマフアザラシ」(<kali- 「模様」); **nəm-θ-lʔ-** 「村人 (アリュートル人の自称)」(<nəm- 「村」); **ram k-θ-lʔ-** 「客」(<ram k- 「宿営地」); **pan ina-lʔ-** 「祖先」(<pan ina- 「以前」).

これらの名詞は普通名詞と同様に格変化するほか、所有形をとりうる(26)。通常L形が所有形をとることはない。

- (26) **kali-lʔ-in** **nalx-θ-n**
 ゴマフアザラシ-POSS>3SG 毛皮-E-ABS.SG
 「ゴマフアザラシの毛皮」(GTN)

3. G形による所有表現

G形は名詞語幹に接周辞 *ya...-lin* (ə) をつけることで作られる。先行研究では形容詞の一種と位置づけられ、*habitive adjective* と呼ばれている⁵ (Kibrik et al. 2004: 285)。

G形は格接尾辞をとることはなく、所有者の人称および数のみが区別される。G形の典型的な用法は叙述用法で、それ自体が名詞句として文の主語や目的語の位置に立つことはな

⁵ 接尾辞末尾の *-a* は3人称絶対格単数で脱落するが、非単数をあらわす接尾辞 *-t* が後続する場合にあらわれる。この接辞は歴史的には、共格 *ya...-(t)a* および *yaqə...-(t)a* (基底形は **ya.jə...-(t)a*) と、また主動詞に先行あるいは主動詞と並行する行為をあらわす副動詞をつくる *ya...-(t)a* および *yaqə...-(t)a* と関連があると考えられる。さらに、動詞語幹について結果相を作る接周辞とも同形であり、歴史的には関連がある可能性もあるが、共時的には別のものとみなす。

⁶ チュクチ語では「名詞の人称形の一つで、所有者をあらわすもの」(Skorik 1961: 345)、コリヤーク語では「ものの所有をあらわす特徴」という意味を持つ形容詞の一種 (Zhukova 1972: 162) とされている。Stassen (2009: 359) はこれに相当するチュクチ語の形式を *with-possessive* としている。

いという点では形容詞と共通するが、連体修飾用法の例はまれであるという点で形容詞⁷とは異なる。

(27) 叙述用法

ann əlq-ə-n **ɣa-m in t̪ə-lin** (=5)
 PLN-E-ABS.SG WITH-水-E-WITH.3SG
 「A(岬)には水がある」(GTN)

(28) 連体修飾用法

ɣa-tum ɣ-ə-lin **ŋavəŋ-ə-n** **ɟət-ti**
 WITH-友人-E-WITH.3SG 女-E-ABS.SG 来る-3SG.S:PFV
 「友だちを連れてた女の人 came」(NVM)

3.1 G 形の付加する語

接周辞 *ɣa...-lin* (ə) は普通名詞にのみ付加し、人名、地名、人称代名詞、指示代名詞には付加しない。また L 形とは異なり、語彙化した例は見られない。

3.2 G 形の所有物名詞の性質と表わす意味

(A) 身体部分、属性、モノの部分

身体部分、属性、モノの部分など、譲渡不可能な所有物についてもちいられる場合、非普通所有物については単に所有物の有無を((29)および(30))、普通所有物については所有物の豊富さ(31)、あるいは程度のはなはだしさ(32)などを表わす。

(29) **m iɬətəŋ-uw w i** **ɣa-la-lu-ləŋ**
 ロシア人-E-ABS.SG WITH-ひげ-WITH.3PL
 「ロシア人はひげがある」(GTN)

(30) **m atka** **ɣət̪tə** **ɣa-q lavu t̪-ɬət?**
 疑問 おまえ.ABS WITH-夫-2SG.PRED
 「おまえは夫があるのか」(IMP)

(31) **m ən-ʔ-akm i t̪-lə-n** **ŋan in** **nəm ju ɬə-n (...)**
 1NSG.A-SBJV-とる-PLUR-3SG.P あの.3SG 村-ABS.SG (...)
m əri **ɣa-ɣəm k-lin**
 なぜなら WITH-動物-WITH.3SG
 「あの村を奪おう。動物がたくさんいるから」(Kibrik et al. 2004: 85)

譲渡不可能な所有物が抱合による修飾要素をとることはない。

⁷ ここでいう形容詞とは *n-əm əj-ə-ŋin* 「大きい」のような形式を指す。

- (32) **ana ya-kinm -ə-ləŋ ənati-w w i**
 たぶん WITH-根-E-WITH.3PL カラフトゲンゲ-ABS.PL
 「たぶん(この)カラフトゲンゲ⁸は根が太いよ」(GTN)
- (33) ***ana ya-m aHkinm -ə-ləŋ ənati-w w i**
 たぶん WITH-良い+根-E-WITH.3PL カラフトゲンゲ-ABS.PL
 「*たぶん(この)カラフトゲンゲはいい根がある」(GTN)

(B) 衣服、家畜、その他のモノ

衣服、家畜、その他のモノなど、譲渡可能な所有物について、所有物の有無に関心がある場合に、一時的な所有を表わすのにもちいられる。

譲渡可能な所有物にかぎり修飾要素を語内部へとりこむことが可能である。例文(36)では、身体部位を表わす名詞が所有者自身の部位を表わすと理解される場合は非文となるが、その他の所有物を表わすと理解される場合は許容される。

- (34) **m uru ya-produkta-m uru ya-pu latka-m uru**
 わたしたち:ABS.PL WITH-食べ物-1PL.PRED WITH-テント-1PL.PRED
 「わたしたちは食べ物もあるし、テントもある(だからここでキャンプできる)」(GTN)
- (35) **ya-ql ɸa-turu?**
 WITH-パン-2PL.PRED
 「(道を歩きながら)あなたたちは(家に)パンがあるか?(なければ買っていこう)」(NVM)
- (36) **ya-tur+lot-ixət?**
 WITH-新しい+頭-2SG.PRED
 「おまえは新鮮な頭(魚などの)を持っているか?」(NVM)

4. 存在構文との違い

L形およびG形と存在構文との違いについては永山(2004:74-76)で述べているように、所有者と所有物の一体感が強い場合にはL形またはG形が、一体感が弱い場合には存在構文がもちいられる。とくに所有者名詞が場所およびそれに準ずるものを表わす場合に違いが明確に表れる。

- (37) ***rara-ŋa un un u-lʔ-ə-n**
 家-ABS.SG 子供-PROP-E-ABS.SG
 「* (この) 家は子供がいる」
- (38) ***rara-ŋa ɣ-un un u-lin**
 家-ABS.SG WITH-子供-WITH.3SG
 「* (この) 家は子供がたくさんいる」

⁸ マメ科の植物。根を食用にする。

- (39) **rara-k** un un u it-ə-tkən
 家-LOC 子供:ABS.SG いる-E-IPFV:3SG.S
 「家に子供がいる」(いずれも永山2004: 69)

上記の例では所有物が「子供」である場合、所有者である「家」との一体感が弱いためL形およびG形は不適切とされるが、「ストーブ」のように一体感の強い所有物であれば、いずれの形式でも適切な文となる。

- (40) **rara-ŋa** pasi-lʔ-ə-n
 家-ABS.SG ストーブ-PROP-E-ABS.SG
 「(この)家はストーブがついている」

- (41) **rara-ŋa** ya-pasi-lin
 家-ABS.SG WITH-ストーブ-WITH.3SG
 「(この)家はストーブがついている」

- (42) **rara-k** pasi-n it-ə-tkən
 家-LOC ストーブ-ABS.SG ある-E-IPFV:3SG.S
 「家にストーブがある」(いずれも永山 2004: 68)

同様に所有者「ボート」に対する所有物「オール」あるいは「エンジン」は、一体感が強いのでいずれの形式も許容される。ただし場所格をもちいた存在構文(45)では、エンジンが固定されずにボートの上に置いてあると解釈することもでき、L形(43)およびG形(44)とくらべると「所有者」と「所有物」の一体感が弱いといえる。

- (43) ʕətv-ə-ʕət m ator-ə-lʔ-ə-n
 ボート-E-RDP:ABS.SG エンジン-E-PROP-E-ABS.SG
 「(その)ボートはエンジンがついている」

- (44) m atka ya-tiv inəŋ-ə-lin ʕətv-ə-ʕət?
 疑問 WITH-オール-E-WITH.3SG ボート-E-RDP:ABS.SG
 「(その)ボートにオールがあるか」

- (45) ʕətv-ə-k m ator it-ə-tkən
 ボート-E-LOC エンジン:ABS.SG ある-E-IPFV:3SG.S
 「(その)ボートにエンジンがある」(いずれも永山2004: 70-71)

5. 共格との共起

共格には3種類あり、このうち1つはG形と共通する接頭辞を持つ⁹。

⁹ *yaŋə...-(t)a*の基底形は**ya.jje...-(t)a*であり、これに相当するコリヤーク語の形式を Zhukova(1972: 120)は**ye.jje...-(t)e*のように分析していることから、G形の接頭辞部分と共通する形式を含むと考えることもできる。しかし Zhukova(1972)には *jje*という形式についての説明がなく、このような分析が妥当であるかどうか疑問が残る。

(46) 共格の接辞

- a. $\gamma a \dots (t)a$: $\gamma a \text{-}\eta\gamma a\gamma a\text{-}a$ 「妻と」 ($\eta\gamma a\gamma a$ 「妻」)
 b. $\gamma e\eta\eta \dots (t)a$: $\gamma e\eta\eta \text{-}\gamma\eta\eta \text{-}a$ 「犬と」 ($\gamma\eta\eta$ 「犬」)
 c. $a\omega \eta n \dots (m)a$: $a\omega \eta n \text{-}qam \text{-}a \text{-}m \text{-}a$ 「皿ごといっしょに」 ($qam \text{-}a$ 「皿」)

Nagayama (2006: 131) で指摘したように、L形接尾辞は上記共格のうちbおよびcの接頭辞と共起しうる。それぞれの機能および意味の違いは現時点では明らかではない。

(47) $\gamma e\eta\eta \text{-}tavaq \text{-}jux \text{-}\eta \text{-}l \text{-}\eta \text{-}n$

COM-タバコ-入れもの-E-PROP-E-ABS.SG
 「タバコ入れを持ったもの」

(48) $\gamma e\eta\eta \text{-}jan\eta \text{-}il \text{-}\eta \text{-}l \text{-}\eta \text{-}n$

COM-トナカイをつなぐ綱-E-PROP-E-ABS.SG
 「トナカイをつなぐ綱がついたもの」

(49) $a\omega \eta n \text{-}up\gamma a\gamma a \text{-}\eta \text{-}l \text{-}\eta \text{-}n$

COM-犬をつなぐ棒-PROP-E-ABS.SG $sapa \text{-}\gamma a\gamma a \text{-}tk\eta n$
 鎖+引きずる-IPFV:3SG.S
 「棒をつけたままの(犬)が鎖を引きずっている」(NVM)

(50) $m \eta \eta \text{-}\eta \text{-}w \text{-}a \text{-}l$

大きい-E-ナイフ:ABS.SG $\eta p\eta s\eta \text{-}\eta \text{-}k$ $\gamma a \text{-}n \text{-}illil \text{-}lin$
 横-E-LOC RES-吊るす-RES.3SG.P

$a\omega \eta n \text{-}w \text{-}a \text{-}l \text{-}j \text{-}l \text{-}\eta \text{-}l \text{-}\eta \text{-}n$

COM-ナイフ-入れもの-E-PROP-E-ABS.SG
 「(彼は)大きなナイフを鞘ごと脇へ吊るした」(Kibrik et al. 2004: 134, text22-34)

6. 欠如を表わす形式

欠如を表わす形式はL形に否定の接辞を付加した接周辞 $a \dots k\eta \text{-}l \text{-}n$ から形成され、現に所持していないことを示す。接尾辞- $l \text{-}n$ の後には3人称単数であれば接尾辞- in が、1人称および2人称であればそれぞれの人称に応じた人称標示が付加する。多くの場合、否定の小辞 $a \text{-}(b)$ が先行する。これは形容詞の否定形と同形である。テキスト中の用例は多くはないが、生産的に語を派生することができる。叙述用法のほかに連体修飾用法がある。

(51) (a) $a \text{-}m \eta \eta \text{-}\eta \text{-}k\eta \text{-}l \text{-}n$

(NEG) NEG-大きい-E-NEG-PROP-3SG
 「大きくない」(形容詞)(CLI)

(52) $\gamma\eta m \text{-}m \text{-}\eta$ $q\eta t\eta m \text{-}m \text{-}\eta$ $\eta a\eta\eta k$ $m \text{-}\eta \text{-}tkiv \text{-}\eta \text{-}k$

わたし.ABS 否定意志 そこ.LOC OPT.1SG.S-E-泊まる-E-1SG.S

$m \eta \eta i$ $a \text{-}l$ $a \text{-}pasi \text{-}k\eta \text{-}l \text{-}n$ $rara \text{-}\eta a$

なぜなら NEG NEG-ストーブ-NEG-PROP-3SG 家-ABS.SG

「わたしはあそこには泊まらない。家にストーブがないから」(CLI)

さらに、接頭辞 *taq* は願望法の動詞とともにもちいられた場合、この接頭辞がついた名詞の欠如により動詞で表わされる行為ができないことを示す。しかし直説法の動詞とともにもちいられた場合、この限りではない。

- (59) **taq-uttə-qam a-ta** m ən-tilqat-la
 ABES-木+E-皿-ABES OPT.1NSG.S-脂とベリーのペースト-PLUR
 「木の皿がないので脂とベリーのペーストを作れない」(CLI)
- (60) **taq-uttə-qam a-ta** kətavan m ət-tilqat-la-m uru
 ABES-木+E-皿-ABES それでも 1NSG.S-脂とベリーのペースト-PLUR-1PL.S
 「木の皿がなかったが、それでも脂とベリーのペーストを作った」(CLI)

7. まとめと今後の課題

本稿ではアリュートル語の所有を表わす2つの形式L形およびG形について、所有物名詞の性質、意味、用法の特徴を検証した。その結果L形がより一体感の強い所有関係を、G形が比較的一体感の弱い一時的な所有関係を表わすことが明らかになった。また第5節では存在構文との比較から、存在構文はL形およびG形よりも所有者と所有物の一体感が弱い関係を表わす場合にもちいられることを示した。いっぽう、L形と共格接辞との共起、欠如を示す3つの形式については簡略に特徴を記述するのみにとどまっており、まだ十分な考察が進んでいない。今後の調査でこれらについて明らかにしていく必要がある。

参考文献

- Dunn, Michael (1999) *A Grammar of Chukchi*. Ph.D Thesis of Australian National University. (unpublished)
- Kibrik, A.E., S.V. Kodzasov, I.A.Muravyova. 2004. *Language and Folklore of the Alutor People* (ELPR Publications Series A2-042), Suita, Japan: Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University. (English Translation of *Iazyk i fol'klor aliutortsev*, Moskva: IMLI RAN "Nasledie". 2000)
- Kilpalin, K.V. 1993. *Ania: skazki severa* [Ania: tales of the North]. Petropavlovsk-Kamchatsky: RIO Kamchatskii oblastnoi tipografii.
- 永山ゆかり 2004. 「アリュートル語の所有・存在をあらわす形式について」津曲敏郎編『環北太平洋の言語』第11号(科研費特定領域研究「環太平洋の<消滅に瀕した>言語にかんする緊急調査研究」ならびに基盤研究「北方諸言語の類型的比較研究」成果報告集): pp.45-78, 北海道大学大学院文学研究科.
- Nagayama, Y. 2006. *Possessive Expressions in Alutor*. (北海道大学提出学位論文)
- Skorik, P.Ia. 1961. *Grammatika Chukotskogo iazyka I* [Grammar of Chukchi], Moscow-Leningrad: Nauka.
- Stassen, Leon. 2009. *Predicative Possession*, Oxford University Press.
- 角田太作 1991/2009. 『世界の言語と日本語』くろしお出版.
- Zhukova, A.N. 1972. *Grammatika koriakskogo iazyka* [Grammar of Koryak]. Leningrad: Nauka.

Two Proprietary Affixes in Alutor

Yukari NAGAYAMA
(Hokkaido University)

Alutor (Paleosiberian, Chukchi-Kamchatkan family) has two proprietary constructions formed with affixes *-lʔ* (L-form) and *ʒa...-lin á* (G-form). In this paper, I will describe morphological, syntactical and semantic features of possessee nouns in each construction and demonstrate that the L-form is preferred when there is a particularly close semantic relationship between the possessor and possessee. The G-form, in contrast, is used when a speaker is interested in the existence of a possessee, and often expresses a temporal possession.

Additionally, I will show the difference between the proprietary forms and an existential construction, illustrate the co-occurrence of L-form with comitative prefixes and give examples of several kinds of abessive forms in Alutor.

(ながやま・ゆかり nagayama@let.hokudai.ac.jp)